

# 外国人旅行者の意識からとらえた

## 中崎町のイメージ形成

寄本 圭子

(要約文)

中崎町は戦前からの路地と古い木造住宅が残り、古い建物を改修した店舗と共にメディアなどによって取り上げられ、外国人を含む来街者が増加している。中崎町のイメージはどのように形成されてきたのか、中崎町を訪れる人はどのようなイメージにより、何を目的に訪れているのか考察した。

はじめに

大阪市北区中崎町は、大阪市の中心である梅田のすぐ近くに位置しながら、戦前からの路地と古い木造住宅のある街並みが残り、レトロなまちとしてメディアにも取り上げられ、多くの人々が訪れている。中崎町を訪れる人々は何に惹かれ中崎町を訪れているのであろうか。近年、中崎町には外国人旅行者も多く訪れ、中崎町のイメージの形成にもかかわってきている。それがどのように形成されているのか考察する。

### 1. 中崎町の概要

中崎町は、JR 大阪駅、阪急、阪神のターミナル駅がある梅田から徒歩約 10 分という都心近くでありながら、戦前からの街並みが残る。江戸時代、一帯は大坂三郷の外側で、田畑が広がっていた。明治後期から大正にかけて市街化され、畦道や運河がそのまま通りや路地に姿を変え、長屋の町が広がっていった<sup>1</sup>。昭和 20 (1945) 年の大阪大空襲で旧北区は 44.2% が消失したなかで、全域が被害にあった万歳町を除き、中崎町は焼け残った<sup>2</sup>。昭和 40 (1965) 年頃は、金属工場、製麺工場、メリヤス店、ガラス店、印刷会社など町工場も多く、住宅地や市場など、賑わいのある地域であった<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 橋爪紳也編(2004)『大阪 新・長屋暮らしのすすめ』p.35

<sup>2</sup> 財団法人大阪都市協会編 (1980)『北区史』p.173、済美連合振興町会編(2016)『済美の人 街なみ 暮らし OLD & NEW』p.31

<sup>3</sup> 済美連合振興町会編(2016)『済美の人 街なみ 暮らし OLD & NEW』、大阪市立済美小学校 (1966)『大阪市立済美小学校 50 周年記念誌』

地下鉄谷町線中崎町駅があることもあり、新聞<sup>4</sup>、雑誌<sup>5</sup>インターネット<sup>6</sup>等、メディアにおいてもおおむね古くからの町名である「中崎町」と呼ばれ、人々にも認知されている。大正 13 (1925) 年の改正により、中崎町という町名が誕生した。昭和 53 (1978) 年に実施された新住居表示により、中崎へと町名が変わり、現在は中崎町という地名はなく、中崎 1~3 丁目、中崎西 1~4 丁目となっている<sup>7</sup>。

連合振興町会等の地域活動においては、上記に加えて旧済美小学校区である万歳町、扇町 2 丁目 5 番、6 番と合わせて済美地域と呼ばれる。本論文においては、地域での呼び方に倣い、済美地域を中崎町と位置付ける。

## 2. 中崎町についての先行研究

中崎町における、戦前から残る町屋・長屋の再生型店舗の集積形成と、またそれが地域にもたらす影響についての先行研究は、地理学から論じたもの（キナー、中道）、建築学から論じたもの（熊谷他）、都市計画から論じたもの（前田他）などがある。

キナー(2015)は、中崎町におけるリノベーションが地域のイメージを「こじやれたレトロタウン」に変え、経済的活動の磁場を生み、裕福な経営者を招いていると論じている。

中道(2015)は、中崎町への古着店の集積が、「一部の人だけに知られた、落ち着いて過ごせる場所」という隠れ家的な街と古着店の居心地の良さにより起こっており、そのイメージがさらに人や店を呼ぶことにつながっていくと述べている。

熊谷・稲坂・濱・渡辺(2016)は、「既存建築の改修による更新が地域内に増加することにより、街の景観やコミュニティの改善、居住者や来街者の属性などの変化をもたらすことをリノベーションの集積効果と定義」したうえで、「中崎町は極度に集積が進行しており、またカフェを中心とした店舗用途が多く」、「このような同種用途の集積は地区全体を特徴づけており、多数の来街者が訪れるメリットもあり、半ば観光化した地区となっている」と述べている。

---

4 たとえば、2018年2月26日、日経MJ「大阪・梅田駅から歩いて15分、中崎町、『都会の昭和』好きやねん、長屋に個性派ショップ、若者集う。」との見出しで中崎町が紹介されている。また、2019年03月28日、朝日新聞夕刊でも「最新の韓国アニメ、特集上映 大阪・中崎町で来月6~10日」との記事がある。

5 たとえば、『SAVVY 2018 June』では、「梅田の新しい・おいしい！中崎町 梅田 北浜」というタイトルで、お店が紹介されている。

6 たとえば、キナリノというウェブサイトでは、「レトロな町並み散策へ☆注目スポット大阪中崎町の隠れ家カフェ9選」として、中崎町のカフェが紹介されている。

<https://kinarino.jp/cat4-%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%83%A1/10001-%E3%83%AC%E3%83%88%E3%83%AD%E3%81%AA%E7%94%BA%E4%B8%A6%E3%81%BF%E6%95%A3%E7%AD%96%E3%81%B8%E2%98%86%E6%B3%A8%E7%9B%AE%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%83%E3%83%88%E5%A4%A7%E9%98%AA%E4%B8%AD%E5%B4%8E%E7%94%BA%E3%81%AE%E9%9A%A0%E3%82%8C%E5%AE%B6%E3%82%AB%E3%83%95%E3%82%A7%E9%81%B8> (最終閲覧 2020年2月28日)

7 財団法人大阪都市協会編(1980)『北区史』pp. 525-526

前田・瀬田（2012）は、中崎地区<sup>8</sup>には「戦前の木造建物が相当数残存しており、長年住み続けている地元住民間には相互扶助的なコミュニティが存在しており、他方で「住宅から店舗へのコンバージョン」が2000年ごろから急増しており、その過程において来街者が増加し、まちの「ブランド化、観光地化」がなされていると述べている。「梅田のすぐ隣で『自己実現の装置としての長屋』再生が試みられた結果現れた、レトロでスローな『心ほどけるまち』の空気感や『レトロかわいい隠れ家ショップ』」などを特徴とする「中崎町的なもの」という地域イメージのブランドとしての確立のもとで「流動的なまちの営みが続いて」おり、そのなかで、地域との関りを深めようとする店舗関係者は、地元コミュニティにとって望ましいと述べている。そのうえで、「『中崎町的なもの』の魅力は、長屋再生、すなわち古くからの住宅地というベースがあつてこそであり、この魅力を維持していくには、店舗経営者が防犯・防災・清掃等生活レベルの協力をしていくことが重要である。」と、店舗経営者が地域活動をしていくことの重要性を述べている。また、「今後は急増するマンション住民と地元住民、そして店舗経営者との関係性について分析する必要がある」とも指摘している。

以上のように、中崎町においては、古い建物を改装した店舗によるまちのイメージにより、来街者が増え、また地域に根付いて活動する店舗経営者もいる。さらに、最近、古くからの街並みと店舗を訪れる訪日外国人を含む来街者が増加している。

### 3. 中崎町についてのメディアでの取り上げられ方

中崎町は雑誌記事においてどのように取り上げられてきたのであろうか。大宅壮一文庫雑誌記事牽引検索 Web 版において2020年2月28日時点での「中崎町」での検索結果は43件であり、一番古いものは2001年11月『日経トレンドィ』において、「Street Watching 大阪 中崎町 若い店主が町家を改造 ポスト梅田の注目スポット」であった。以降取り上げられる雑誌が増えていく。2002年6月には大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所発行の情報誌『CEL』にて、「“創造都市”の時代へ“創造都市”への取り組み 再生の実験タウン『中崎町』」、2002年11月には『大阪人』で、「町屋・喫茶・文化考 記憶、そして再生 中崎町物語（大阪市北区）よみがえる北の長屋まち」として再生のまちとして取り上げられている。2004年には、『関西ウォーカー』で、「この街がくるっ！新レトロエリアに行く！町家や古ビルの最新スタイルに注目！」として近隣地域と共に「レトロ」というイメージで紹介されている。2006年には10月には『Hanako WEST』の「全大阪ガイド 今、一番旬なお店をナビゲート」という記事に中崎町も入っ

<sup>8</sup> 前田・瀬田は、論文中で、中崎1丁目、中崎2丁目、中崎3丁目、中崎西1丁目、中崎西2丁目、中崎西3丁目、中崎西4丁目を「中崎地区」と記している。

ている。12月には『大阪人』にて「中崎町的なるもの」と題して中崎町の特集が組まれている。2012年10月には生活情報誌『CREA』に「レトロな中崎町」として書かれている。2017年8月には『女性自身』にも「大阪おんな旅 新3大名所巡り」という記事で新3大名所に中崎町が取り上げられている。2018年7月には『関西ウォーカー』で、「NMB48 渋谷風咲が発見！ #かわいい関西7回・かわいいを探しにレトロな中崎町へ」という記事がある。「レトロ」と共に「かわいい」イメージで記事が書かれている。2019年1月には『セブンティーン』にて、「OSAKA Seventeen 大阪めっちゃガイド！」の中に中崎町も取り上げられており、さらに2019年2月には『EX大衆』において、「うちらがオモロイ場所連れてってあげる！NMB48 と行くッ！OSAKA ふしぎ発見ツアー65回・まるで昭和へタイムスリップ！情緒ある長屋のカフェ巡り 中崎町」との記事がある。

中崎町は、雑誌において「レトロなまち」というイメージが定着している。旅行雑誌や街歩き雑誌にも取り上げられているが、それ以外の雑誌である芸能誌やファッション誌、ライフスタイル誌の中でも多く取り上げられるようになっている。

では、ブログやSNSでは、中崎町はどのように取り上げられているのだろうか。2019年12月7日時点でのインスタグラムにおける「#nakazakicho」は4.9万件の投稿があり、「#nakazakicho café」は1,000件以上の投稿がある。日本語、英語、韓国語、フランス語、タイ語などで投稿されている。

ブログやSNS等では、中崎町の風景と、風景を背景に本人が映ったもの、食べ物店や食べ物、雑貨などを紹介したものが主である。

#### 4. 中崎町を訪れている外国人旅行者の意識

中崎町を訪れている外国人旅行者は、どのような情報をもとに、何に惹かれ、何を目当てに訪れているのであろうか。また、店舗の従業員や地域の住民に対し、どのような意識を持っているのであろうか。韓国からの旅行者、香港からの旅行者、アメリカ合衆国からの旅行者、中国からの旅行者にインタビューを行った。なお、旅行者に対するインタビューは英語により行い、筆者が翻訳し、要約した。英語のホームページ記事は筆者が翻訳、韓国語のブログ等は筆者の韓国語ができる知人が訳したものを筆者が文章化した。

ケース I 中崎西1丁目の路地にて韓国、ソウルからの20歳男性4人組に2019年2月25日11:30～、聞き取りをおこなった。中崎町へは、インターネット、SNSを見て来ました。目的は、カフェや良い雰囲気 (good mood) のためです。中崎町について印象に残る言葉やイメージ

は写真スポット(photo zone)です。

中崎町は韓国の SNS で人気の写真スポットとなっており、自分も写真を撮って SNS に上げるそうであるが、地域の人たちとの触れ合いも望んでいるとのことであった。

ケースⅡ 古民家改装カフェにて香港からの 30 代カップルに 2019 年 2 月 27 日 17:30～聞き取りを行った。中崎町にはふらっと来て、このお店については知らなかったが、ぶらぶら歩いていてこの店に入ってみました。大阪は初めてで、6 日間滞在します。これまでで良かったのは、滞在している大国町近くのとても年配のご夫婦がやっている古いレストランです。雰囲気がとてもよかったです。大阪にはミュージアムが少なく、街中のアートスポットも少ないと思います。私たちはショッピングのために来たものではありません。ふつう香港からの観光客は京都に行きますが、私たちはゆっくりしたいので大阪だけです。その街の文化を知りたいので、そのためにはゆっくりすることが大事です。香港と台湾には、古くからの文化が生きています。文化を大事にしています。

京都などの有名観光スポットやショッピングに興味があるのではなく、その街の文化を理解したいという人も中崎町を訪れている。

ケースⅢ 古民家改装カフェにてアメリカ合衆国からの 30 代カップルと 2 歳の子ども、20 代カップルに 2019 年 9 月 11 日 18:15～に聞き取りを行った。個人旅行で来ています。中崎町には、New York Times でこのカフェと近所を見てきました。古い町並みの雰囲気のイメージが良いと思い来ました。日本へは 4 回目、大阪へは初めてです。文化と食べ物を楽しみに来ました。中崎町の地元の人、店員さん、来街者と触れ合いたいと思います。旅行中に日本人と触れ合いました。日本にはまたぜひ来たいです。

日本へのリピーターで、大阪に文化と食べ物を楽しみに、日本人とも触れ合いたいと思って来ているアメリカ人旅行者も中崎町を訪れている。

※The New York Times のホームページで、大阪を紹介する記事の中に、以下のとおり中崎町についての記述が見つかった。

(原文)

36 Hours in Osaka, Japan

By INGRID K. WILLIAMS NOV. 16, 2017

Friday

1) 4 P.M. NEIGHBORHOOD FINDS

Acquaint yourself with a little-known side of Osaka in Nakazakicho, a rare neighborhood of narrow lanes and wooden houses that survived the air raids of World War II and decades of urbanization that followed. Now innovative locals have transformed many long-neglected buildings into creative spaces like Salon de Amanto, an artist-run cafe and community center that hosts lectures and performances in a creaky tenement from the 1880s. Around the corner, wade through piles of vintage clothes and kitschy zakka (life-improving miscellany) at Green Pepe. Scope out contemporary art exhibits at Atelier Sangatsu, a gallery beside a colorful graffiti wall. Shop for wearable art at Hanane T-shirt Living, or scoop up rare Care Bears from the wacky collection at Select Shop Tenten. Finally, recharge at Utena Kissaten, a retro coffee shop in a well-preserved traditional wooden house.

(日本語訳)

日本の大阪での 36 時間

2017 年 11 月 16 日 **INGRID K. WILLIAMS**

金曜日

1) 午後 4 時 近所での発見

第二次世界大戦の空襲とその後数十年の都市化にも生き残った、狭い路地と木造住宅が残るめったにない地域、中崎町で、大阪のあまり知られていない面に触れてみよう。現在、革新的な人々は、「Salon de AManTo 天人」のように、多くの、長い間放置されていた建物をクリエイティブな空間に変身させた。「Salon de AManTo 天人」は、アーティストが経営するカフェであり、コミュニティセンターで、1880 年代に建てられたきしむ借家でレクチャーやパフォーマンスを開催している。すぐ近くの「グリーンペペ」で古着の山とキッチュな zakka (生活を向上させる雑貨) をくぐりぬけ、カラフルな落書きのある壁の横のギャラリー、「アトリエ三月」で現代アートの展示を見よう。「花音 hanane t-shirt living」で着られるアートを買ったり、セレクトショップ「tenten」で奇抜なコレクションからレアなケアベアを手に入れよう。最後に、保存状態の良い伝統的な木造住宅のレトロなコーヒーショップ、「うてな喫茶店」で充電しよう。



図1 (原文)Salon de Amanto is a 1880s-era artist-run cafe and community center. Credit Andrew Faulk for The New York Times  
(訳)「Salon de AManTo 天人」は 1880 年代のアーティストが経営するカフェ・コミュニティセンターAndrew Faulk が The New York Times に提供。  
出典：The New York Times ホームページ「36 Hours in Osaka, Japan」  
<https://www.nytimes.com/interactive/2017/11/16/travel/what-to-do-36-hours-in-osaka-japan.html> (最終閲覧 2020 年 2 月 28 日)

The New York Times のホームページにおいても、中崎町は狭い路地と木造住宅、そこにある木造住宅の「レトロ」な店が街の魅力として取り上げられている。

ケースⅣ 中国上海からの 37 歳 男性に 2019 年 10 月 16 日 19:00～に聞き取りを行った。個人手配旅行できていて、中崎町にはインフルエンサーの勧めで来ました。今日は中崎町をぶらぶらして、当地の人しか見られない景色を見られて幸せでした。地元の人々の生活が見えるところで興味深かった。人びとの普段の生活の様子や日常の営みを見ることが好きです。日本へは 5 回目、2 回は九州へ行き、大阪へは 3 回目です。個人旅行で来る人は、手配など大変ですが、それでも来たいということは、本当に日本に興味があって来たい人が来るとのことだと思えます。

地元の人や、店員、お客さんと交流したいですが、英語を流ちょうに話せる日本人は少ないため交流は難しいと思いました。しかし、日本に来ると皆さん親切で、歓迎してもらっていると感じます。日本人は礼儀を重視する人々なので、日本人の皆さんが気を悪くしないように気を使い、失礼にならないように気を付けています。日本のマナーや日本で

注意することなどについては日本に行った人の SNS で知り、学んでいきます。日本に来る時には、SNS、日本に行ったことのある人の話、ウェブサイト、ガイドブックなどを参考にします。

日本へのリピーターで、日本に住む中国人のインフルエンサーの推奨により、日本の文化を楽しんだり、地元の人が訪れる場所へ訪問し、地元の人々の生活を垣間見たり、地元の人と接することを楽しみにしている外国人旅行者もいる。日本と中国においてマナーが違うことを承知しており、自分の行動やふるまいが日本人に不快感を与えないように気を付けて行動している。日本でのマナーや日本人に対する態度など、積極的に学び、日本での体験に活かそうとしている。

韓国語の中崎町についてのブログでも、以下のように住宅の写真とともに、住民に対する配慮を呼びかけるコメントがされているものもある。



図2 韓国語のブログに掲載されていた住民が暮らすところという写真

(原文)

나카자키초 골목은 주민들이 사는 곳이기 때문에 최대한 배려해야 한다.

나카자키초는 관광지 이전에, 사람들이 사는 주택 골목이다.

그래서인지 골목 자체에 사람들은 많지만, 조용조용한 분위기이다.



(日本語訳)

中崎町の路地は住民が暮らす所なので最大限の配慮が必要である。

中崎町は観光地である前に、人が暮らす住宅路地である。

だからなのか、路地ごとに人は多いが、静かな雰囲気である。

<https://limsee.com/430> (最終閲覧 2020 年 2 月 28 日)

## おわりに

中崎町を訪れている来街者は、商業店舗だけに魅力を感じているのではなく、もともと住民が住んできた古い町並みにもひかれてやってきている。中崎町のイメージとなっている「レトロなまち」、町家や長屋を改装したカフェ、雑貨店、古着店などの店舗だけでなく、地域住民が暮らす町並み自体が人々を引き付けている。インタビューやブログにより、ブログや SNS を見て中崎町を訪れ、また自分も写真を撮り SNS にアップする目的で訪れている人もいれば、日本の文化を知ることを楽しみに、人びとが生活する地域として中崎町を訪れている人もいることが観察された。また、中崎町においては、来街者は人が暮らすところを訪れているということで、地域に暮らす人に迷惑にならないように気を使う訪問者もいるということが明らかになった。中崎町は、地域の人々が暮らすところに店舗が増え、来街者が増加していることから、地域の人々や店舗関係者も来街者に対して様々な取り組みをしているが、来街者の側からも、ブログや SNS を通じてよりよい関係づくりにつながる意識を持つようになることが期待される。

## 参考文献

岩崎信彦・鯉坂学・上田惟一・高木正朗・広原盛明・吉原直樹編(2013)『増補版 町内会の研究』お茶の水書房

上田和弘・神野直彦・西村幸夫・間宮陽介編(2005)『都市の再生を考える 第3巻 都市の個性と市民生活』岩波書店

キナー・ヨハネス(2015)「場所の磁場を生みだすリノベーション：大阪市北区中崎町境界の事例から(特集 都市大阪の磁場：変貌するまちの今を読み解く)」『市政研究』186、pp. 54-65 大阪市政調査会

熊谷亮平・稲坂晃義・濱定史・渡邊史郎(2016)「住商混在型木密地域におけるリノベーション構法とその集積効果」『住総研 研究論文集』No.43、2016年版 pp.23-34

財団法人大阪都市協会編(1980)『北区史』北区制 100 周年記念事業実行委員会

篠田なつき・松村暢彦・成美邦碩(2008)「密集市街地における住居コンバージョン店舗集積地区の空間印象評価に関する研究—大阪市の中崎地区を事例として—」『(社)日本都市計画学会 都市計画論文集 No.43-3 pp.433-438

谷直樹・竹原義二編著(2013)『いきている長屋 大阪市大モデルの構築』大阪公立大学共同出版会(OMUP)

中道陽香(2015)「隠れ家的な街としての大阪・中崎町の生成—古着店集積を事例にして—」『空間・社会・地